

皮膚科学講座

教授：中川 秀己	アトピー性皮膚炎，乾癬，色素異常症
教授：石地 尚興 (定員外)	皮膚リンパ腫，ヒト乳頭腫ウイルス感染症，皮膚アレルギー学
教授：朝比奈昭彦 (定員外)	アトピー性皮膚炎，乾癬
准教授：太田 有史	神経線維腫症
准教授：川瀬 正昭 (東京通信病院に出向中)	ヒト乳頭腫ウイルス感染症
准教授：梅澤 慶紀	乾癬
准教授：延山 嘉眞	皮膚悪性腫瘍
講師：伊藤 寿啓	乾癬，光線療法
講師：伊東 慶悟	皮膚病理学
講師：築場 広一	膠原病，乾癬
講師：伊藤 宗成	皮膚悪性腫瘍，再生医学
講師：石氏 陽三	アトピー性皮膚炎，レーザー治療

教育・研究概要

I. 乾癬

乾癬では、ステロイドと活性型ビタミンD₃製剤を用いた外用療法が治療の基本となっている。内服療法としてシクロスポリンMEPC、エトレチネートがあり、さらに全身照射型のNarrow-band UVB、308nm excimer lampを設置し、積極的に光線療法を行っている。また、生物学的製剤では、抗TNF α 抗体としてインフリキシマブ、アダリムマブ、抗IL-12/23p40抗体としてウステキヌマブ、抗IL-17A製剤としてセクキヌマブ、イクセキズマブ、抗IL-17受容体抗体としてプロダグマブが治療適応となり、難治性重症乾癬患者の治療の選択肢がさらに増えた。治療法の選択には疾患の重症度に加え、患者のQOLの障害度、治療満足度を考慮することが重要である。そのためにQOL評価尺度であるPsoriasis Disability Indexの日本語版を応用し、患者QOLの向上に役立っている。また、メタボリック症候群の精査も行い、高血圧、高脂血症の治療も合わせて行っている。さらに乾癬の重症度と労働生産性に関する疫学調査も行っている。また、乾癬性関節炎に関しては、積極的にDual Energy CTなどの画像診断を行うことにより早期診断を行い、早期治療が可能となった。

当施設では、乾癬患者数が多いことから、新薬の臨床試験を行う機会も多く、生物学的製剤（複数）

や新規外用薬の試験を適宜実施している。

II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の発症にはバリア機能異常の側面、アレルギー・免疫異常の側面、心理社会的側面など複数の要因が関与している。当科ではバリア機能異常に対する対応として保湿剤の使用を勧めている。また、アレルギー的側面については、血液検査を中心にアレルゲンの同定を行っている。心理社会的側面については、アトピー性皮膚炎患者のQOLは種々の程度に障害されていることが明らかになっている。治療はEBMに則った外用・内服療法といった標準的治療を基本に、重症患者にはシクロスポリンMEPC内服療法などを行っている。また、新しい治療法としてホスホジエステラーゼ4阻害外用薬やIL-31をターゲットとした抗体治療の臨床試験を実施した。

III. 皮膚悪性腫瘍

当科では皮膚悪性腫瘍、軟部悪性腫瘍全般を扱っている。内訳は悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、隆起性皮膚線維肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍など多彩にわたっており、国内でも屈指の症例数がある。治療方針は皮膚悪性腫瘍ガイドライン、皮膚悪性腫瘍取り扱い規約に基づき、治療方針を決めている。

色素性病変症例では全例でダーモスコピー検査を実施している。また、悪性黒色腫を中心にRI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検も積極的に行っている。皮膚悪性腫瘍は積極的に手術治療を行っている。進行期症例に対して、免疫療法・分子標的療法・化学療法・放射線療法などを施行している。またがん患者の精神的なケアについて配慮し、がん性疼痛に対しても積極的な治療により、疼痛をほぼ感じることなく日常生活が過ごせるよう緩和ケアを病院の緩和ケアチームと協力して行っている。

IV. 神経線維腫症

神経線維腫症外来は本邦で最も患者が多い外来であり、全国より患者が紹介されるため診断のみでなく長期の観察に加え、患者のQOL向上を目指して積極的に皮膚腫瘍の切除を外来、入院で行っている。神経線維腫症1型（レックリングハウゼン氏病）に合併した悪性末梢神経鞘腫瘍（MPNST）はlifetime riskが10%に達すると言われ極めて予後不良である。原因不明のためMPNSTのがん精巢抗原遺伝子のメチル化状態を検索し、がん精巢抗原遺伝

子が脱メチル化すること、および、CpG アイランド低メチル化形質が存在することを明らかにしている。今後、そのメチル化形質がMPNSTの臨床病態に及ぼす影響について探究する必要がある。

V. ヘルペスウイルス感染症

1. 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛 (PHN)・ヘルペス外来

単純ヘルペスは、性器ヘルペスおよび難治性口唇ヘルペス、顔面ヘルペス患者などの治療を行っている。ウイルス特異的抗原に対する蛍光抗体法や、イムノクロマト法を用いた簡易キットで、迅速な診断を行っている。再発を繰り返す再発型性器ヘルペス患者にはバラシクロビルを用いた再発抑制療法を中心にしている。

帯状疱疹は、皮疹が出現初期からPHNを発症した患者を含め総括的に治療を行っている。急性期痛、PHNを伴う患者ではステロイド、三環系抗うつ薬、オピオイド、プレガバリンを含めた抗痙攣薬、トラマドール塩酸塩／アセトアミノフェン配合錠、トラマドールなどを積極的に用い徐痛を図っている。

VI. ヒト乳頭腫ウイルス感染症

尋常性疣贅では、一般的な液体窒素凍結療法、削り術に加え、難治例では活性型ビタミンD₃軟膏密封療法、50%サリチル酸絆創膏貼付療法、グルタルアルデヒド塗布療法、モノクロロ酢酸塗布などを組み合わせ、治療効果をあげている。さらに難治なものに対してはSADBEによる接触免疫療法、色素レーザーやphotodynamic therapyを施行している。また、尖圭コンジローマに対しては、液体窒素凍結療法、炭酸ガスレーザー治療などに加え、発生場所によってはイミキモドクリームを用いている。ヒト乳頭腫ウイルス感染が疑われる症例ではPCR法でハイリスクのヒト乳頭腫ウイルスの型判定も行っている。

VII. パッチテスト

各種の薬疹、接触皮膚炎、口腔粘膜の扁平苔癬などの原因薬剤、物質のパッチテストを積極的に施行している。

VIII. レーザー治療

Qスイッチルビーレーザー治療では、太田母斑、老人性色素斑の成績が良く、老人性色素斑ではほとんど1回の照射で改善した。他方、データ解析を行い、扁平母斑及び神経線維腫症のカフェオレ斑の有

効率が低いことなどを明らかにした。パルス色素レーザー治療では、単純性血管腫や莓状血管腫、毛細血管拡張症などに照射し、有効であった。ウルトラパルス炭酸ガスレーザーは脂漏性角化症、汗管腫、眼瞼黄色腫などに対し高い治療効果が得られた。

IX. スキンケア外来

乾癬、白斑、皮膚T細胞性リンパ腫、痒疹等に対してNarrow-band UVB照射装置、308nmエキシマライト照射装置を併用して治療を行い、高い治療効果を得ている。

また、専門美容技術指導員が個人指導する「スキンケアレッスン」、「アクネケア」により、治療上の様々な問題点を見出し、改善することによって治療の助けになっている。

「点検・評価」

乾癬外来では各治療法のRisk/Benefit Ratioを考慮し、患者のQOLを高める治療計画確立、治療アドヒアランスの向上を目指している。また、全身照射型のNarrow-band UVB、308nm excimer lampを積極的に稼働させている。また、東京の患者友の会と共同して乾癬患者を対象にした学習懇談会、市民公開講座を定期的に行う予定である。また、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的にしている。

神経線維腫症に関しては当科における専門外来の存在が広く知られているためか、これまで以上に多くの患者が紹介受診し、遺伝相談も積極的に行っている。臨床・基礎研究ではMPNSTについての早期診断に加え、遺伝子異常の検索を続けている。また、患者QOL向上を目指して積極的に神経線維腫の手術にも取り組んでいる。

ヘルペスウイルスの基礎研究では高感度の迅速診断法の有用性を証明しえた。ヘルペスウイルス感染症の早期診断、型分類も行っている。また、性器ヘルペスの抑制療法、PHNの治療に関しても積極的に取り組んでいる。

ヒト乳頭腫ウイルス感染症は紹介難治例も多く、通常の治療法に加え、特殊療法も重症度に応じて、行っている。尖圭コンジローマの治療も積極的にしている。

パッチテスト専門外来では食物によるアナフィラキシーの原因追及、接触皮膚炎、薬疹などの原因物質の同定を行っている。

アトピー性皮膚炎の臨床面ではEBMに基づく治療のみならず、患者のQOLの障害の程度を考慮した日常診療を行っている。中でもスキンケアの重要性を患者に自覚してもらうため、スキンケア外来でのスキンケアレッスンの普及に努めている。心身医学的配慮が必要な患者にはメンタルケア外来を設けて対応している。本学独自の患者の会を中心に息の長い活動もを行っている。

皮膚悪性腫瘍は、手術症例も多く、悪性黒色腫、乳房外パジェット病について国内でも屈指の経験例を有する。センチネルリンパ節生検も積極的に行っている。悪性黒色腫のフェロン維持療法の研究組織は当科が中心となって行っている。

レーザー治療外来では、数種類のレーザー機器を用いて多数の症例を治療している。蓄積されたデータをもとに適切な時期に適切な機器で治療を行えるようになっている。

膠原病は長期経過の中で様々な合併症を生じる疾患群であるため、今後も他科との連携を保ちつつ、継続して治療を行うことが重要であると考えられる。

全体として、様々な難治性皮膚疾患に関する広範な臨床研究に加え、臨床に還元できる基礎的研究が進行していることが特徴である。

研究業績

I. 原著論文

- Asahina A, Umezawa Y, Yanaba K, Nakagawa H. Serum C-reactive protein levels in Japanese patients with psoriasis and psoriatic arthritis: Long-term differential effects of biologics. *J Dermatol* 2016; 43(7): 779-84.
- Asahina A, Torii H, Ohtsuki M, Tokimoto T, Hase H, Tsuchiya T, Shinmura Y, Reyes Servin O, Nakagawa H. Safety and efficacy of adalimumab treatment in Japanese patients with psoriasis: results of SALSA study. *J Dermatol* 2016; 43(11): 1257-66.
- Nakayama M, Itoh M, Kikuchi S, Tanito K, Nakagawa H. Thymoma-associated cutaneous graft-versus-host-like disease possibly treated with Narrow-band UVB phototherapy. *Eur J Dermatol* 2016; 26(2): 208-9.
- Itoh M, Kawagoe S, Okano HJ, Nakagawa H. Integration-free T cell-derived human induced pluripotent stem cells (iPSCs) from a patient with lymphedema-distichiasis syndrome (LDS) carrying an insertion-deletion complex mutation in the FOXC2 gene. *Stem Cell Res* 2016; 16(3): 611-3.
- Itoh M, Kawagoe S, Okano HJ, Nakagawa H. Integration-free T cell-derived human induced pluripotent stem cells (iPSCs) from a healthy individual: WT-iPSC1. *Stem Cell Res* 2016; 17(1): 22-4.
- Itoh M, Kawagoe S, Tamai K, Okano HJ, Nakagawa H. Integration-free T cell-derived human induced pluripotent stem cells (iPSCs) from a patient with recessive dystrophic epidermolysis bullosa (RDEB) carrying two compound heterozygous mutations in the COL7A1 gene. *Stem Cell Res* 2016; 17(1): 32-5.
- Waki Y, Nobeyama Y, Mori A, Tokita M, Itoh M, Nakagawa H. Case of metachronous and multifocal extramammary Paget's disease. *J Dermatol* 2016; 43(6): 723-4.
- Yoshikata-Isokawa Y, Itoh M, Nakagawa H. Japanese sporadic case of erythrokeratoderma variabilis caused by the connexin-30.3 (GJB4) mutation: is Glycine 12 a mutational hotspot in the connexin family? *J Dermatol* 2016; 43(7): 830-1.
- Inokuchi S, Nobeyama Y, Itoh M, Nakagawa H. A case of deep dissecting hematoma: different managements resulting in similar outcomes. *Int J Dermatol* 2016; 55(12): e628-9.
- Fukasawa-Momose M, Itoh M, Ito K, Nobeyama Y, Nakagawa H. Cutaneous apocrine carcinoma on the scalp after cranial irradiation for acute lymphocytic leukaemia. *Eur J Dermatol* 2016; 26(6): 612-3.
- Murayama A, Itoh M, Ito K, Tanito K, Ishida K, Nobeyama Y, Nakagawa H. Case of desmoplastic melanoma with lung metastasis maintaining complete response after cessation of nivolumab. *J Dermatol* 2017; 44(3): e17-8.
- Yamaguchi T, Itoh M, Umezawa Y, Asahina A, Hanabusa H, Nakagawa H. Acquired hemophilia A and fulminant diabetes mellitus possibly caused by adalimumab in a patient with psoriatic arthritis. *J Dermatol* 2017; 44(3): e3-4.
- Sato Y, Nobeyama Y, Omori Y, Nakagawa H. Female case of nevus lipomatosus cutaneous superficialis growing depending on the occurrence site. *J Dermatol* 2017; 44(1): 107-8.
- Kazama M, Umezawa Y, Itoh M, Nobeyama Y, Ito T, Kikuchi S, Yanaba K, Asahina A, Nakagawa H, Ogasawara Y. Successful treatment of ustekinumab in a psoriasis patient with human T-cell leukemia/lymphotropic virus type 1 infection. *J Dermatol* 2016 Nov 18. [Epub ahead of print]
- Nobeyama Y, Nakagawa H. Aberrant DNA methylation in Keratoacanthoma. *PLoS One* 2016; 11(10):

- e0165370.
- 16) Omori Y, Nobeyama Y, Tomita S, Ishida K, Nakagawa H. Case of spindle cell squamous cell carcinoma with dermoscopic findings of diffuse/discrete scales and predominant white color. *J Dermatol* 2016; 43(10) : 1239-41.
 - 17) Nobeyama Y, Nakagawa H. MAGEA3 methylation status is associated with prognosis of malignant peripheral nerve sheath tumor and with neurofibroma type in neurofibromatosis type 1. *J Dermatol Sci* 2016; 84(1) : 101-4.
 - 18) Miyake S, Nobeyama Y, Baba-Honda H, Nakagawa H. Case of ecthyma gangrenosum in which only methicillin-resistant *Staphylococcus epidermidis* was detected. *J Dermatol* 2016; 43(4) : 460-2.
 - 19) Hayashi M, Yanaba K, Umezawa Y, Asahina A, Nakagawa H. Impact of anti-tumor necrosis factor- α agents on serum levels of KL-6 and surfactant protein-D in patients with psoriasis. *J Dermatol* 2017 Mar 31. [Epub ahead of print]
 - 20) Imafuku S, Honma M, Okubo Y, Komine M, Ohtsuki M, Morita A, Seko N, Kawashima N, Ito S, Shima T, Nakagawa H. Efficacy and safety of secukinumab in patients with generalized pustular psoriasis: a 52-week analysis from phase III open-label multicenter Japanese study. *J Dermatol* 2016; 43(9) : 1011-7.
 - 21) Nobeyama Y, Umezawa Y, Nakagawa H. Less-invasive analysis of DNA methylation using psoriatic scales. *J Dermatol Sci* 2016; 83(1) : 70-3.
 - 22) Salakhieva DV, Sadreev II, Chen MZ, Umezawa Y, Evstifeev AI, Welsh GI, Kotov NV. Kinetic regulation of multi-ligand binding proteins. *BMC Syst Biol* 2016; 10 : 32.
 - 23) Asahina A, Umezawa Y, Yanaba K, Nakagawa H. Serum C-reactive protein levels in Japanese patients with psoriasis and psoriatic arthritis: long-term differential effects of biologics. *J Dermatol* 2016; 43(7) : 779-84.
 - 24) Yanaba K, Umezawa Y, Honda H, Sato R, Chiba M, Kikuchi S, Asahina A, Nakagawa H. Antinuclear antibody formation following administration of anti-tumor necrosis factor agents in Japanese patients with psoriasis. *J Dermatol* 2016; 43(7) : 443-4.
 - 25) Umezawa Y, Nakagawa H, Niuro H, Ootaki K, Japanese Brodalumab Study Group. Long-term clinical safety and efficacy of brodalumab in the treatment of Japanese patients with moderate-to-severe plaque psoriasis. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2016; 30(11) : 1957-60.
 - 26) Torii H, Terui T, Matsukawa M, Takesaki K, Ohtsuki M, Nakagawa H: Japanese Dermatological Association (JDA) PMS committee. Safety profiles and efficacy of infliximab therapy in Japanese patients with plaque psoriasis with or without psoriatic arthritis, pustular psoriasis or psoriatic erythroderma: results from the prospective post-marketing surveillance. *J Dermatol* 2016; 43(7) : 767-78.
 - 27) Yanaba K, Umezawa Y, Honda H, Sato R, Chiba M, Kikuchi S, Asahina A, Nakagawa H. Antinuclear antibody formation following administration of anti-tumor necrosis factor agents in Japanese patients with psoriasis. *J Dermatol* 2016; 43(4) : 443-4.
 - 28) Maki T, Yanaba K, Ishiujii Y, Umezawa Y, Asahina A, Nakagawa H. Recurrent neutrophilic dermatosis of the face: a report of two cases and review of the literature. *J Dermatol* 2016; 43(7) : 811-4.
 - 29) Shibata Y, Yanaba K, Ito K, Nishimura R, Miyawaki T, Nakagawa H. Nodular fasciitis on the face. *J Dermatol* 2016; 43(10) : 1235-6.
 - 30) Kubo N, Yanaba K, Kikuchi S, Fukuchi O, Nakagawa H, Namba H, Muro Y. Juvenile dermatomyositis positive for anti-DNA mismatch repair enzyme antibodies. *Eur J Dermatol* 2017; 27(1) : 97-9.
- ## II. 総 説
- 1) 朝比奈昭彦. 【免疫疾患 Update】皮膚関連疾患 生物学的製剤総論. *クリニシアン* 2016; 63(2) : 223-9.
 - 2) 朝比奈昭彦. 【乾癬性関節炎が分かる！-多角的アプローチで早期診断を】(Part3) 乾癬性関節炎の治療戦略(総説06) 乾癬性関節炎の患者にどの生物学的製剤を選択するか. *Visual Dermatol* 2016; 15(5) : 501-5.
 - 3) 朝比奈昭彦. 【皮膚科の薬剤と医療機器 最近10年間の進歩】最近の新薬について 乾癬関連 乾癬の新薬 今後の展望. *皮膚臨床* 2016; 58(6) : 833-42.
 - 4) 松崎大幸, 梅澤慶紀. 【子どもの皮膚を診る】角化症 乾癬. *小児内科* 2016; 48(4) : 493-7.
 - 5) 梅澤慶紀, 中川秀己. 【最近のトピックス 2016 Clinical Dermatology 2016】新しい検査法と診断法 乾癬性関節炎の質問票. *臨床皮膚科* 2016; 70(5) : 85-90.
 - 6) 百瀬まみ, 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦, 中川秀己. よく使う日常治療薬の正しい使い方 乾癬治療薬の正しい使い方. *レジデントノート* 2016; 18(7) : 1303-7.
 - 7) 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦, 中川秀己. 乾癬の頭部病変. *皮膚と美容* 2016; 48(3) : 90-7.
 - 8) 梅澤慶紀, 朝比奈昭彦, 中川秀己. 【皮膚科内服剤の使用法と留意点】シクロスポリンとエトレチナート. *Derma*. 2016; 246 : 43-9.

- 9) 築場広一, 中川秀己. 乾癬における non-anti-TNF biologics. リウマチ科 2016; 56(3): 333-6.
- 10) 築場広一. 【まるわかり! 膠原病のすべて】混合性結合組織病の診断から治療まで. Derma. 2016; 250: 35-40.

III. 学会発表

- 1) 石氏陽三. (特別企画4: 痛みとかゆみを解き明かす) かゆみを感じる脳, 痛みを感じる脳. 第115回日本皮膚科学会総会. 京都, 6月.
- 2) 伊藤宗成. (特別企画1: 再生医学) 皮膚科領域における再生医療の変遷~植皮術からiPS細胞まで~. 第115回日本皮膚科学会総会. 京都, 6月.
- 3) 石川真帆子, 延山嘉真, 太田有史, 中川秀己, 神尾麻紀子, 加藤久美子. 乳癌を合併した神経線維腫症1型男性患者の1例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松, 10月.
- 4) 金谷瑠奈, 伊藤宗成, 延山嘉真, 伊藤慶悟, 村山 梓, 中川秀己, 石田勝大. ニボルマブ投与中止後も完全寛解を維持している desmoplastic melanoma の肺転移例. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松, 10月.
- 5) 金谷瑠奈, 延山嘉真, 伊藤宗成, 伊東慶悟, 谷戸克己, 中川秀己, 石田勝大. ニボルマブ投与中止13ヵ月後もCRを維持した線維形成性黒色腫の肺転移例. 第133回成医会総会. 東京, 10月.
- 6) 盛島美弥, 延山嘉真, 谷戸克己, 石地尚興, 中川秀己. びまん性神経線維腫の臀部慢性膿皮症を合併した神経線維腫症1型の1例. 第8回日本レックリングハウゼン病学会学術大会. 米子, 12月.
- 7) 井ノ口早苗, 延山嘉真, 百瀬まみ, 大森康高, 小林光, 中川秀己. 隆鼻目的のヒアルロン酸注入による虚血性皮膚・眼障害の1例. 第867回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 7月.
- 8) 九穂尚子, 延山嘉真, 石川真帆子, 佐藤玲子, 井ノ口早苗, 百瀬まみ, 山根理恵, 大森康高, 小林 光, 伊藤宗成, 中川秀己. 自壊した有茎性石灰化上皮腫の1例. 第866回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6月.
- 9) 脇 裕磨, 延山嘉真, 林 玲華, 小林 光, 伊藤宗成, 中川秀己, 石田勝大. 有茎性を呈した悪性黒色腫の1例. 第866回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 6月.
- 10) 井ノ口早苗, 延山嘉真, 小林 光, 小原明希, 宇野能子, 北川和男, 石地尚興, 中川秀己. 直腸周囲の筋肉変性をきたした褥瘡の1例. 第18回日本褥瘡学会学術集会. 横浜, 9月.
- 11) 片木宏昭, 廣岡信一, 野村浩一, 伊東慶悟, 延山嘉真, 中川秀己, 大田泰徳, 鷹橋浩幸, 池上雅博. 緩徐な経過を示した原発性皮膚 CD8陽性 CD30陽性 T細胞性リンパ増殖性疾患の1例. 第105回日本病理学会

- 総会. 仙台, 5月.
- 12) 延山嘉真. (Future dermatological session 教育講演) 皮膚悪性腫瘍, その診療の進歩. 第115回日本皮膚科学会総会. 京都, 6月.
- 13) 延山嘉真. (市民公開講座: 進歩する乾癬・悪性黒色腫の診療) 悪性黒色腫の診断-早期診断-早期治療のために-. 第115回日本皮膚科学会総会. 京都, 6月.
- 14) 築場広一. (Future dermatological session 教育講演) 膠原病の皮疹のみかた-皮膚から全身を読み解く-. 第115回日本皮膚科学会総会. 京都, 6月.
- 15) 築場広一. (ワークショップ4: 同一分子細胞に対する正と負の免疫制御) 制御性B細胞. 第44回日本臨床免疫学会総会. 東京, 9月.
- 16) 築場広一. (ミニシンポジウム1: Bregと皮膚疾患) 乾癬とBreg. 第80回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 浜松, 10月.
- 17) Yanaba K. (Sweets seminar 3: Novel therapeutic approach for psoriasis) Impact of anti-TNF- α agents on treatment for psoriatic arthritis. 日本研究皮膚科学会第41回年次学術大会・総会. 仙台, 12月.
- 18) Ishiui Y, Umezawa Y, Aizawa N, Inokuchi S, Asahina A, Yanaba K, Ebata T, Nakagawa H. Evaluation of the clinical characteristics of pruritus in patients with psoriasis using the Japanese version of the 5-D itch scale. 日本研究皮膚科学会第41回年次学術大会・総会. 仙台, 12月.
- 19) Yoshihara Y, Yanaba K, Hayashi M, Chiba M, Ishiui Y, Ishiji T, Nakagawa H. IL-10-producing regulatory B cells are decreased in patients with atopic dermatitis and are inversely correlated with disease severity. 日本研究皮膚科学会第41回年次学術大会・総会. 仙台, 12月.
- 20) Watanabe Y, Kobayashi H, Nobeyama Y, Nakagawa H. The effectiveness of IL-24 induced by IFN- β on melanoma 日本研究皮膚科学会第41回年次学術大会・総会. 仙台, 12月.

IV. 著 書

- 1) 朝比奈昭彦. III. 注射薬 1. 生物学的製剤 生物学的製剤の使い分けは? 宮地良樹 (滋賀県立成人病センター, 京都大) 編. 皮膚科頻用薬のコツと落とし穴. 東京: 文光堂, 2016. p.274-7.
- 2) 朝比奈昭彦. 第1章: 薬物療法の基礎知識 15. その他の治療薬 (11) 皮膚科領域の生物学的製剤について教えてください. 大谷道輝 (東京通信病院), 宮地良樹 (滋賀県立成人病センター, 京都大) 編. マイスターから学ぶ 皮膚科治療薬の服薬指導. 東京: メディカルレビュー社, 2016. p.192-3.
- 3) 朝比奈昭彦. I. 湿疹, 皮膚炎 8. 慢性単純性苔癬.

渡辺晋一(帝京大), 古川福実(和歌山県立医科大) 編.
皮膚疾患最新の治療 2017-2018. 東京: 南江堂,
2017. p.47.

放射線医学講座

教授: 福田 国彦	放射線診断学
教授: 関根 広	放射線治療学
教授: 貞岡 俊一	インターベンショナルラジオロジー
	オロジー
教授: 青木 学	放射線治療学
教授: 内山 眞幸	核医学
准教授: 尾尻 博也	放射線診断学
准教授: 中田 典生	超音波診断学
准教授: 砂川 好光	放射線治療学
講師: 小林 雅夫	放射線治療学
講師: 有泉 光子	放射線診断学
講師: 佐久間 亨	放射線診断学
講師: 川上 剛	放射線診断学

教育・研究概要

I. 画像診断部門

1. IDH (isocitrate dehydrogenase) 遺伝子変異の有無による膠芽腫の画像所見の相違について検討

2016年のWHOの中枢神経系腫瘍の分類の改訂に伴い、組織型に加え分子遺伝学的なパラメーターが多く腫瘍の診断に使用されるようになった。特に神経膠腫の分類においてはIDH遺伝子の変異の有無が重要な項目の1つとなっている。そこで我々はIDH遺伝子変異の有無による膠芽腫の画像所見の相違について検討した。

2. 頭頸部癌頸部リンパ節転移: Computed Tomography (CT) scoring systemによる評価
頸部リンパ節転移は頭頸部癌の最も重要な予後因子である。主な評価項目である、大きさ、形状、節外進展、局所欠損によるCT scoring systemを設定、頸部郭清術施行例で病理結果と対比、有用性を検討した。

3. 心電図同期 Multidetector row CT (MDCT)を用いた冠動脈の血管炎、血管周囲炎の検討
高安動脈炎等の全身性血管炎、全身性エリテマトーデス等の自己免疫疾患、Immunoglobulin G (IgG) 4関連疾患などのリンパ増殖性疾患等、様々な疾患において、冠動脈に血管炎や血管周囲炎を合併することが知られており、それらの診断、評価における心電図同期MDCTの有用性を検討した。

4. Airspace Enlargement with Fibrosis (AEF)の吸気、呼気CTにおける嚢胞サイズ変化の検討